

次の走者へ確かに渡ったバトンー生徒会引継ぎー (2020.10.28)

例年であれば全校生徒が見守る中、新旧交代のセレモニーが行われる生徒会執行部の引継ぎ式も現在の状況では放送による実施が今できる精一杯のかたちでした。会長の秋山拓真さんをはじめ、今年度の執行部は全校が一堂に会する行事への制約が多く、ほとんどの集会在放送での実施を余儀なくされたものの、綿密な計画の下、成果を上げました。放送で顔は見えずとも各教室からは大きな拍手が聞こえてきたことがそれを物語っています。本校の二大行事の運動会と東中祭も知恵を出し合い、成功裏のうちに終えることができたことは特筆するに値します。秋山会長の挨拶を紹介します。

僕は1年生後期から2年生前期まで生徒会副会長、2年生後期から3年生前期まで生徒会長として、2年間活動してきました。ここまでやりきれたのも、先生方や生徒の皆さんの協力のおかげです。本当にありがとうございました。今こうして振り返ってみると、たくさんの思い出があります。副会長時代は、小玉前生徒会長率いる陽気な先輩方に恵まれ、とても楽しく活動していたのを覚えています。担当の先生から厳しく言われたこともありましたが、オンとオフの切り替えがすばやく、どんな行事も楽しく、完璧にこなしていく先輩方が僕は大好きでした。今でも心から尊敬しています。そして、あっという間にバトンタッチの時期になり、生徒会長としての1年がスタートしました。僕たちの執行部は強力なメンバーだったので、そのことについての心配はありませんでしたが、生徒会長なんだという責任感とプレッシャーが強かったです。でも、それは生徒会長としての宿命なのだ心に留め、今の今まで向き合ってきました。新型コロナウイルスにより、様々な制限がありましたが、「今できること」をモットーに、時には暗くなるまで話し合いを重ねました。朝に弱い執行部員も多かったのですが、それでも早く学校に来て、打合せやリハーサルを行うなど、全ては学校そして生徒のために、一生懸命頑張りました。そんな執行部の頑張りを、仲間がらたたえたいと思います。本当にお疲れ様でした。自分もその一員として活動してこれたこと、執行部の皆と一つの目標に向かってこれたことは、僕のかげがえのない財産です。



全校生徒へ語り掛ける秋山会長

最後に、新執行部の皆さんへのメッセージです。この先、頑張っても思うようにならず、悔しい思いをしたり、プレッシャーや責任感に押しつぶされそうになったりすることがたくさんあると思います。そんな時は、好きなだけ落ち込んで、悩むだけ悩んでください。それはそれだけ真剣に戦っている証しだと思います。どんなに暗い闇の中でも、明けない夜はありません。絶対に「あの日の悔しさは無駄ではなかった」と笑える日はやってきます。自分の信念は根となり、努力は水、経験は茎となり、そして仲間は太陽です。日の当たらない時があるからこそ、仲間の大切さに気がつくと思います。1年後には、あなたにしか咲かせることができない花が咲いていることを願っています。今まで本当にありがとうございました。

引継ぎ後に行われた新生徒会役員任命式では会長の2年の加藤健太さんをはじめ、副会長の太田条治さん、伊藤義悠さん、三浦瑞姫さん(以上2年)、1年の佐藤瑚波さん、また、執行部員の菅原終さん、石垣志帆さん(以上2年)、鈴木陽翔さん、加藤結衣さん(以上1年)を加えた総勢9名に木村守人校長より任命書が手渡されて決意を新たにするとともに、後期生徒会執行部が始動しました。新執行部は前執行部の活動目標「善進全励～一人一人が主役となり輝き、活躍できる東中を目指して～」から「Do your best! ～笑顔・信頼・挑戦～」と新たな目標を掲げ、目指す東中生の姿を「笑顔を交わし、信頼を深め、目標に向かって挑戦」と設定しました。11月13日に放送で行われた生徒総会、執行部をはじめとする各委員会の活動方針及び計画の提案と質疑応答、評決は滞りなく賛成多数で可決され、後期の活動が本格的に始まりました。



チーム東中 栄光の足跡

- ☆令和2年度男鹿湯上南秋学校保健会健康生活推進顕彰児童生徒 大井ひかる, 村井咲季
- ☆第55回県中学校秋季柔道大会 11月14日～15日 男鹿市総合体育館
 - 女子団体3位, 女子個人44kg級 小玉星乃華 ベスト8, 48kg級 佐藤あやの ベスト8, 52kg級 笹渕季来 3位, 57kg級 林音芭 優勝, 70kg級 鎌田巴 優勝
 - 男子個人50kg級 杉本龍聖 1回戦敗退, 60kg級 清水隼大 3位, 60kg級 越前虎太郎 ベスト8
- ☆県中学校秋季バスケットボール大会 11月21日～22日 CNAアリーナ★あきた(秋田市立体育館) 女子 優勝
- ☆県中学校秋季卓球大会 11月22日 美郷町総合体育館 リリオス 男子個人 齋藤快 ベスト16

花壇ボランティアで地域に貢献する生徒会

生徒会が掲げる「東中三大運動」の一つのボランティア活動が新執行部の呼び掛けに賛同した多くの生徒の参加の下、11月9日と12日に行われました。二日間にわたり行われた花壇ボランティアは春に植えたベゴニア、マリーゴールド、サルビアなどの撤去が主な作業でしたが、短時間で手際よく終わることができました。いつもより早く学校へ送り出したり、車で送ってくださったり、又、作業中は徐行をしてくださった保護者の皆様には深く感謝申し上げます。来年度もまた、来校者の目を楽ませるために花壇に花の苗を植える準備ができました。



冷気が一段と深まり心地よい爽秋の中、作業に精出す

「困った」「助けて」が言える人にーSOSの出し方講座ー (2020.11.25)

秋田県は自殺死亡率(10万人当たりの自殺者数)が全国でも高い年度が10年以上続いた時期もあり、この状況は未だ変わっていません。平成18年には自殺対策基本法という法律もでき、「困難な事態や強い心理的な負担を受けた場合の対処の仕方を身に付けるための教育(SOSの出し方に関する教育)」の必要性が言われてきています。このほど、男鹿市市民福祉部健康子育て課の臨床心理士である千葉純子氏を講師に、本校3年生を対象とした講座が開催されました。千葉氏は転んで泣いている子どもの写真を提示して「痛くない、痛くない」と言うのではなく、「(痛い)と泣いているのだから痛いのよ」と肯定してあげてほしいと話し、「あなたたちも自分の感じることを大切にしてほしい」と語り掛けました。そして、これから生きていくために大切なのは「相談力」であり、自分の思いを言葉にすることは勇気のいることだが、苦しみや悩みを言葉にして信頼できる人に助けを求めてほしい、人は幸せになるために生まれてきたのだから、苦しい時には声を上げて助けを求めてほしいと呼び掛けました。最後に加藤大翔さんは「自分は悩みを抱え込んでしまうタイプ。信頼できる大人を探していきたい」と感想を述べました。